

⑤4 平良港国際クルーズ拠点整備事業

受賞機関 内閣府 沖縄総合事務局 平良港湾事務所

キーワード 既設の防波堤を活用したクルーズ岸壁、22万t級クルーズ船、整備期間の短縮、国際クルーズ船

全建賞審査委員会の評価ポイント

22万t級の大型クルーズ船を対象としたクルーズ専用施設整備事業。既存施設の最大限の有効活用（既設防波堤を活用した栈橋式岸壁の整備、既存防波堤を拡幅した臨港道路の整備、既設防波堤と陸上部との連絡橋の整備など）により3か年での整備が実現し、成果が明確に現れている点が評価された。

1. はじめに

宮古島は沖縄本島から南西に約300km、東京から約1,800kmに位置し、豊かな自然環境や歴史的・文化的特性を有する魅力的な観光リゾート地である。平成27年の伊良部大橋の開通や、平良港へのクルーズ船の定期就航等により宮古島の知名度が上がり、空路・海路共に入域観光客数が年々増加している。なお令和元年には、東アジアにおける旺盛なクルーズ需要に支えられ、クルーズ寄港全国6位となる147回の実績を記録した。

2. 事業の概要

前述したとおり、旺盛なクルーズ需要に早急に対応するため、3か年（平成29年～令和2年）という短い期間での供用を達成することを目標に、平良港の避難泊地に面しており、静穏度が確保出来る場所である既設の防波堤を活用したクルーズ岸壁の整備を行うこととした。



本整備事業の施設概要

本事業については、平成29年度から整備に着手し、当初は、令和2年春までに14万t級クルーズ船対応の岸壁及び受入施設を整備することで開始したが、クルーズ船の大型化が年々進展するなか、船社から22万t級クルーズ船の寄港要望が出てきたことから、平成30年11月に港湾計画変更（一部変更）を行い、岸壁等を22万t級対応の施設に変更を行った。なお、整備期間が短い中においてもクルーズ需要に柔軟に対応するため、創

意工夫*を行いながら施設整備を進め、令和2年4月には14万t級クルーズ船に対応した専用ターミナルとして暫定供用を行い、令和4年3月に22万t級クルーズ船に対応した施設を完成させたものである。

※整備期間を短縮するために行った主な工夫

- ①防波堤の基礎マウンドを撤去せず設置可能となる栈橋式を採用
- ②構造形式は現地施工期間の短いジャケット式を採用
- ③既存泊地を利用できる立地のため浚渫土量を最小とした回頭水域の確保
- ④道路幅員を確保するため、既存防波堤の天端を活用し、埋立範囲を最小とした

3. 事業の成果

本施設の完成により、他の岸壁では受け入れられなかった11万t級以上のクルーズ船を受け入れられるようになり、国際観光需要の機会損失を回避することができるようになった。また、直接的な観光収益以外にも宮古圏域の新たな雇用の創出や、農産品や工芸品等の生産向上、国外における宮古島の知名度向上及び旅行者と住民との交流による国際化など様々な効果が期待できる。



令和5年5月11日クイーン・エリザベス
(総トン数90,900t、全長294m)

4. おわりに

令和2年～4年の間は、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響によりクルーズ船の運航が休止していたが、今年の4月8日には、本ターミナルで国際クルーズ船の受入れを開始しており、今後より多くの新規観光客を呼び込み、アフターコロナにおける宮古島の経済・観光のV字回復の起爆剤として大きな役割を果たすことが期待される。

賛助会員 エム・エムブリッジ(株)、五洋建設(株)、あおみ建設(株)、若築建設(株)、(株)不動テトラ、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)ニュージェック